

F-REI 市町村座談会（檜葉町）議事要旨

1. 日 時 令和5年11月17日(金) 16:00~17:20

2. 場 所 檜葉町地域活動拠点施設「まざらっせ」

3. 議 事

(1) 開 会

(2) 挨拶

(3) F-REI の取組紹介

(4) 意見交換

<テーマ> F-REI との未来の連携について

(5) 閉 会

【主な発言内容】

- 当会は、町内の産業集積エリアに立地する企業等 22 社で構成されており、医療、エネルギーなど F-REI とつながりを持てる可能性のある企業も含まれている。
- F-REI との連携は事業者にとっても新たなチャレンジ、事業拡大のチャンスと考えているが、どのように関わってよいか見えてないというのが現状。
- この地域は全町避難の影響で人材不足に悩んでいる。F-REI には大学との連携等で高度な人材を輩出していただき、その人材が企業など地域に還元できればよいと考える。この地域で働くことが子供たちの夢となることにも期待している。
- F-REI には広域連携の要となることや中間貯蔵施設にある土壌・廃棄物の減容化などのこの地域に役に立つ研究に期待している。
- ハンフォードの例などを参考に、F-REI がこの地域の信頼の権威となるような存在になってほしいと考えている。これからもこうした対話できる機会を増やしていきたい。
- 「ふくしま復興塾（現在はふくしま創生塾）」を主宰し、起業家を育成する取組を行っている。これまでに 200 名ほどの卒業生が主に浜通りに根付いて地域の担い手と

して活躍している。

- 檜葉町での学生のインターンシップも調整しており、参加した学生に対して、地域の課題を見つけて解決に向けた方策をプレゼンするというプログラムを行っている。プレゼンが目的ではなく、こうしたことを蓄積し、首都圏にクラスター（ファンクラブ）を作ることが目的。こうした取組が参加した学生による教育関係の社団法人設立にもつながった。
- F-REI の研究者や関係者に地元に住んでもらうためには、迎える側として檜葉町や周辺町村が力を合わせてエンターテインメント要素を用意することも必要。我々も民間事業者として協力したい。
- 当社は、中性子を利用したがんの放射線治療の開発を行っており、F-REI の研究との連携にも期待している。
- 成功モデルが出来上がれば、自然に人や企業が集まる。この地域は人材不足に悩まされており、F-REI を核とした人が集まるモデルに期待している。浜通りで起業すれば成功するというモデルが定着し、ベンチャー企業を後押しできるようになればよい。
- 浜通りの温暖な気候を利用したガラスハウスでのトマトの大規模栽培を考えているが、風評被害の再燃、原油高による暖房費の高騰、熱中症対策等の課題がある。F-REI には、こうした課題についても研究材料として議論していただきたい。
- 「ふくしま復興塾」で学び、作業員の方と地域の方を結ぶ場として居酒屋を開業した。現在は閉店し、移住者と地域の方を結ぶシェアハウスの運営を行っている。
- F-REI の取組のなかに「ラーニング・コミュニティハブ整備事業」というものがあったが、この地域には既に沢山のコミュニティ拠点がある。被災地として蓄積してきたコミュニティに関する知見や F-REI の研究等を横断したモデル村のようなものを作り、それがスマートシティを超えるものにつながればよい。
- 異なる属性の方を結びつけることを得意としており、研究者が地域に溶け込むためのお手伝いをできればと考えている。
- 檜葉町の基幹産業は農業であり、F-REI には農業分野の研究に期待している。檜葉町でも農業者の高齢化や後継者不足が問題となっており、若い世代が農業に参入でき

るような環境づくりにつながる研究にも期待している。

- 地域の伝統文化の次世代への継承も大事であり、「じゃんがら念仏踊り」といった地域の伝統行事について、後世に伝えるための方策も考えていただけるとありがたい。
- F-REI についてよくわからないという声も多いため、活動内容を機関紙等で伝えるのもよいのではないか。
- スマート農業は、農業機械の値段が非常に高額になることを懸念している。できれば今持っている機械を直して使っていけるような農業について研究していただきたい。
- 「儲かる農業」については、自分で販売先を見つけ、それを拡大していくことが大事であると考えている。そのために SNS 等によるつながりも活用している。儲かるかどうかは自分次第ではないかという思いもある。